

2025年5月30日  
公益社団法人 日本農業法人協会

## 「コメ生産に係る会員アンケート」結果概要

～令和6年産米の販売価格は2万円～2.5万円が最多、消費者価格の高騰とコメ離れを危惧～

コメの小売店での販売価格が連続して値上がりし、政府の備蓄米放出によっても販売価格が高止まりしたままであり、消費者のコメ離れが危惧されたことから、公益社団法人日本農業法人協会は、5月12日から19日に会員を対象とする「コメ生産に係る会員アンケート」を実施しました。

主食用米を生産する会員のうち188社の回答によれば、会員の令和6年産米の販売価格は2万円～2.5万円（玄米60kg）が最多で、4千円（精米5kg）を上回る消費者価格を8割が「高い」と捉えており、更に全回答の5割超は「高すぎる」と捉えていました。会員の多くが消費者と同じ危機感を持っていることが分かりました。

農林水産省によれば、2023年時の基幹的農業従事者約116万人が、今後20年間で30万人まで激減する推計を公表しており、コメをはじめとする国産食料の安定供給が懸念される状況にあります。

稲作を行う当協会会員は、平均耕地面積は約66ha（全国平均比37倍）であり、農地の集約・集積化・大区画化を更に推進し、将来にわたり国内でのコメ生産の安定化を図り、持続的に国民への食料供給の責めを果たす必要があります。

そのためには、需要と供給の安定化により適正な再生産価格が維持されるとともに、消費者の理解と協力を得ることが重要であると考え、上昇する生産コストを抑制するため経営の効率化を図りながら生産性を上げ、需要に応じたコメの増産に取り組む所存です。

## アンケートのトピックス

- 令和6年産主食用玄米（1俵・60kg平均・税込、以下同じ）の販売単価は、45.2%が20,001～25,000円と回答しており最多、次いで20.7%が15,001円～20,000円。この2つの価格帯で65.9%を占める。
- 令和6年産主食用玄米の販売単価は、令和5年産米に比べて、「5,001円～10,000円増加した」が最多、次いで「1円～5,000円増加した」。この2つの価格帯で74.5%を占める。
- 令和6年産主食用玄米の販売単価に比べて、令和7年産米は「上昇する（昨年比30%未満）」、令和8年産米は「下落する（昨年比30%未満）」との回答が最多。
- 令和6年産主食用玄米の生産コストは、68.1%が令和5年産米に生産コストに比べて、「1.1倍～1.5倍未満の幅で上昇した」と回答、次いで「1.5倍～2.0倍未満の上昇した」の順。1.1倍～2.0倍未満の幅で生産コストが上昇したとの回答が87.2%を占める。
- 消費者が購入している令和6年産米の価格について、生産者としての受止めについては、53.7%が「高すぎる価格で流通している」と回答しており最多。
- 今後5年間で63.3%が作付面積を10%以上増加する予定。増産に向けては「基盤整備された優良農地の担い手農業者への集積・集約」が必要との回答が最多。

【調査結果の概要】 詳細は後添「調査結果表」のとおり。

- ① 令和6年産主食用玄米（1俵・60kg平均・税込、以下同じ）の販売単価は、回答者の45.2%が20,001円～25,000円、20.7%が15,001円～20,000円の順。
- ② 令和6年産主食用玄米の販売単価は、令和5年産米の販売単価に比べて、最多が5,001円～10,000円増加した、次いで1円～5,000円増加したの順。
- ③ 令和6年産主食用玄米の生産コストは、令和5年産主食用玄米の生産コストに比べて、最多が1.1倍～1.5倍未満の上昇、次いで1.5倍～2.0倍未満の上昇の順。回答者の87%は1.1倍～2.0倍未満となっている。
- ④ 令和6年産の収支実績（見込みを含む）は、令和5年度の収支実績に比べて、最多が30%未満の利益増加、次いで30%～50%未満の利益増加の順。利益が50%以上増加した回答者は11.7%にとどまる。
- ⑤ 消費者が購入している令和6年産米の価格について、生産者としての受止めについては、最多が「高すぎる価格で流通している」で53.7%、次いで「高いが適切な価格で流通している」で30.9%の順。
- ⑥ 令和7年産主食用玄米の販売単価は、令和6年産米の販売単価に比べて、最多が「30%未満上昇する」、次いで「30%～50%未満上昇する」と「同じ」が拮抗している。
- ⑦ 令和8年産主食用玄米の販売単価は、令和6年産米の販売単価に比べて、最多が「30%未満下落する」、次いで「同じ」、「30%未満上昇する」の順で、認識が分かれている。
- ⑧ 今後5年間で、コメ作付面積を現在よりもどの程度増加させるかとの問いには、最多が「1.1倍～1.5倍未満」、次いで「変わらない～1.1倍未満」、「1.5倍～2.0倍未満」の順。
- ⑨ コメの生産の安定及び増産に向けてどのような取組や対策が必要か（複数回答）との問いには、最多が「基盤整備された優良農地の担い手農業者への集約・集積」、次いで「適正で正確な作況指数の把握」、「スマート農業の推進等による生産性の向上」の順。
- ⑩ 稲作経営での今後の不安（複数回答）は、最多が「農業用施設の建築単価や機械の取得単価が高すぎる」、次いで「生産コストの大幅上昇」、「人手不足」、「生産過剰によるコメ価格の暴落」の回答が拮抗している。
- ⑪ コメの増産に向けての障壁・対応にはどのようなものがあるか（複数回答）との問いには、最多が「増産に必要な機材、資材、人件費等が高騰していること」、次いで「必要となる労働力が確保できない・不足していること」、「農地の集積・集約化・大区画化が進まないこと」が拮抗している。

#### ◆調査の実施概要

調査名	調査期間	調査方法	調査票配布数	有効回答数（※）
国内のコメ生産に係る緊急アンケート調査	2025年5月12日～5月19日	WEB	1,833	188

（※）主食用米を生産していると回答した者を有効とした

#### 【お問い合わせ先】

公益社団法人 日本農業法人協会 総務政策課 政策担当 森（080-1271-3249）、紺野  
E-mail:seisaku@hojin.or.jp  
〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8 中央労働基準協会ビル1階

# コメ生産に係る会員アンケート

2025年5月

調査期間：2025年5月12日（月）～2025年5月19日（月）  
調査対象：公益社団法人日本農業法人協会 正会員  
調査方法：WEBによる回答  
有効回答：188先（調査対象先数1,833先のうち主食用米の生産者）

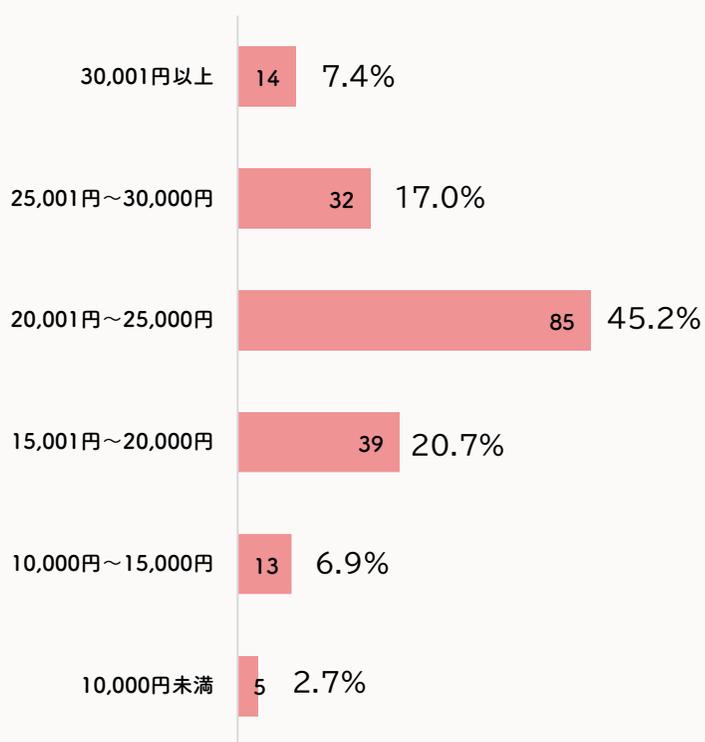


公益社団法人  
日本農業法人協会

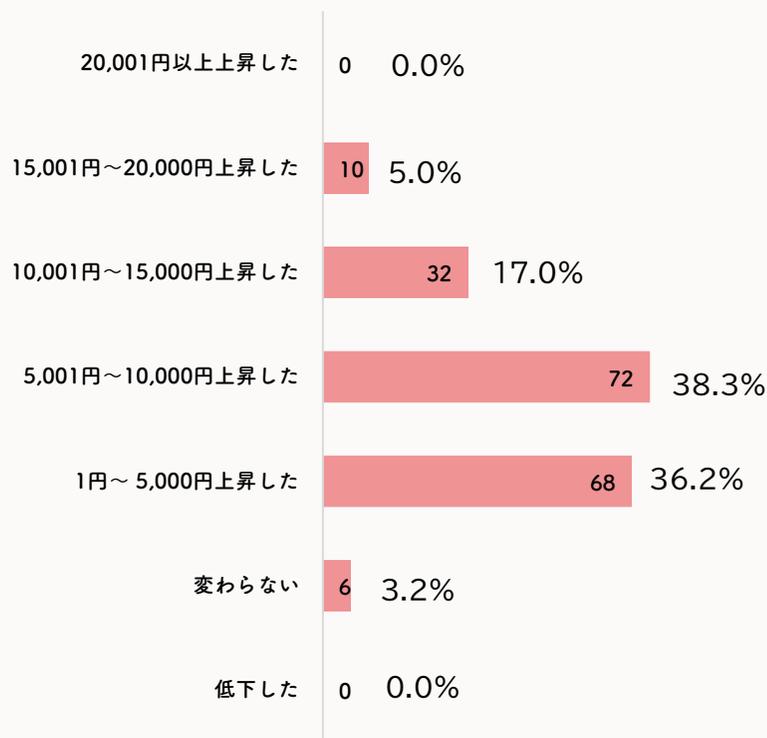
# 1. コメの販売価格と変動

- 令和6年産主食用玄米（1俵・60kg平均・税込、以下同じ）の販売単価は、回答者の45.2%が20,001円～25,000円、20.7%が15,001円～20,000円の順。
- 令和6年産主食用玄米の販売単価は、令和5年産米の販売単価に比べて、最多が5,001円～10,000円増加した、次いで1円～5,000円増加したの順。

令和6年産米の販売価格 (N=188)



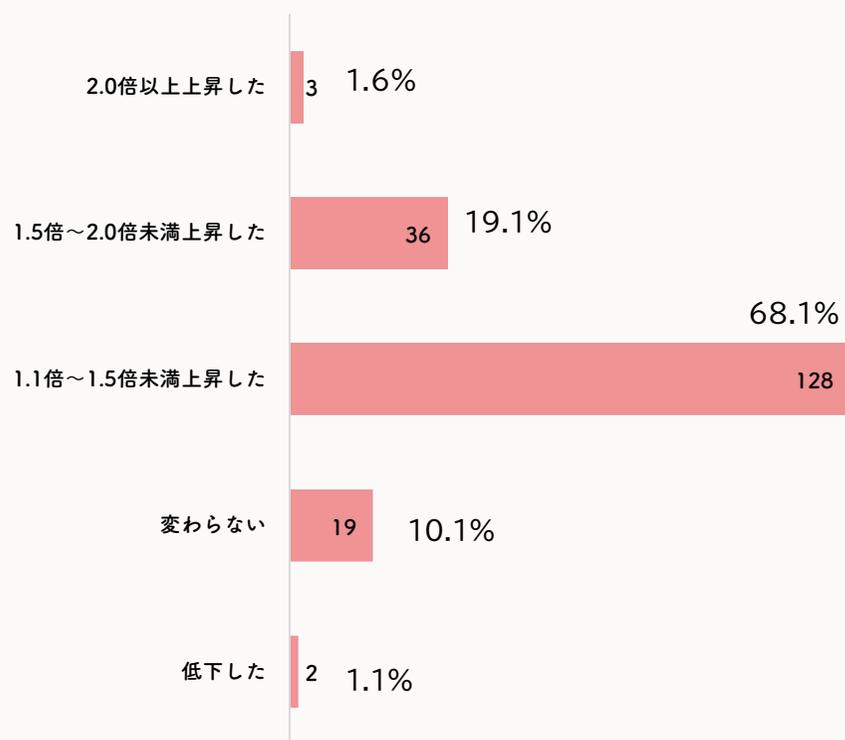
令和5年産米のからの変動幅 (N=188)



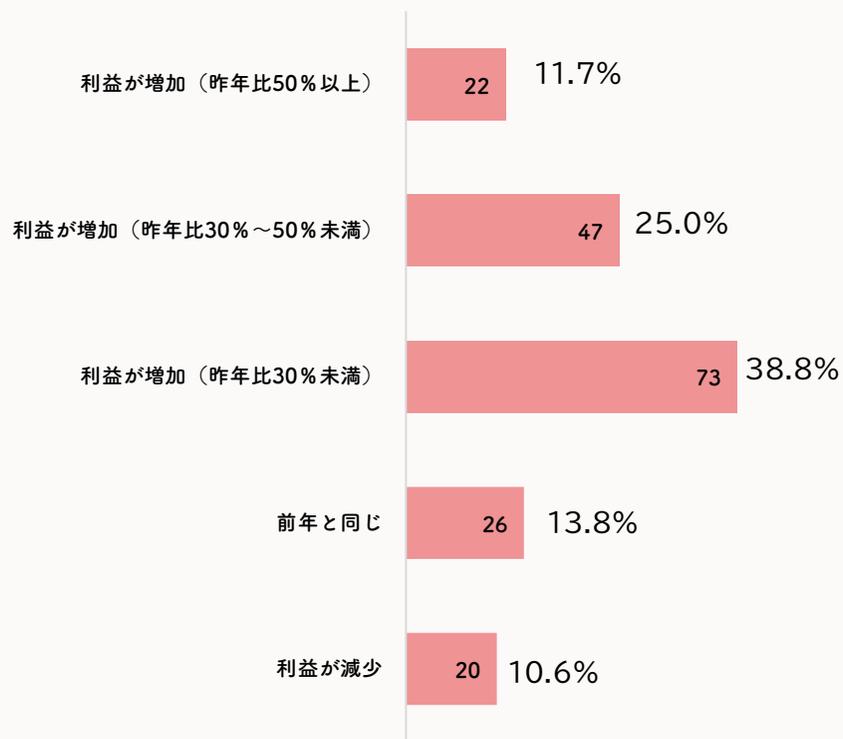
## 2. コメの生産コストと収支実績の変化

- 令和6年産主食用玄米の生産コストは、令和5年産主食用玄米の生産コストに比べて、最多が1.1倍～1.5倍未満の上昇、次いで1.5倍～2.0倍未満の上昇の順。回答者の87%は1.1倍～2.0倍未満となっている。
- 令和6年産の収支実績（見込みを含む）は、令和5年度の収支実績に比べて、最多が30%未満の利益増加、次いで30%～50%未満の利益増加の順。利益が50%以上増加した回答者は11.7%にとどまる。

令和5年度と比べた生産コスト (N=188)



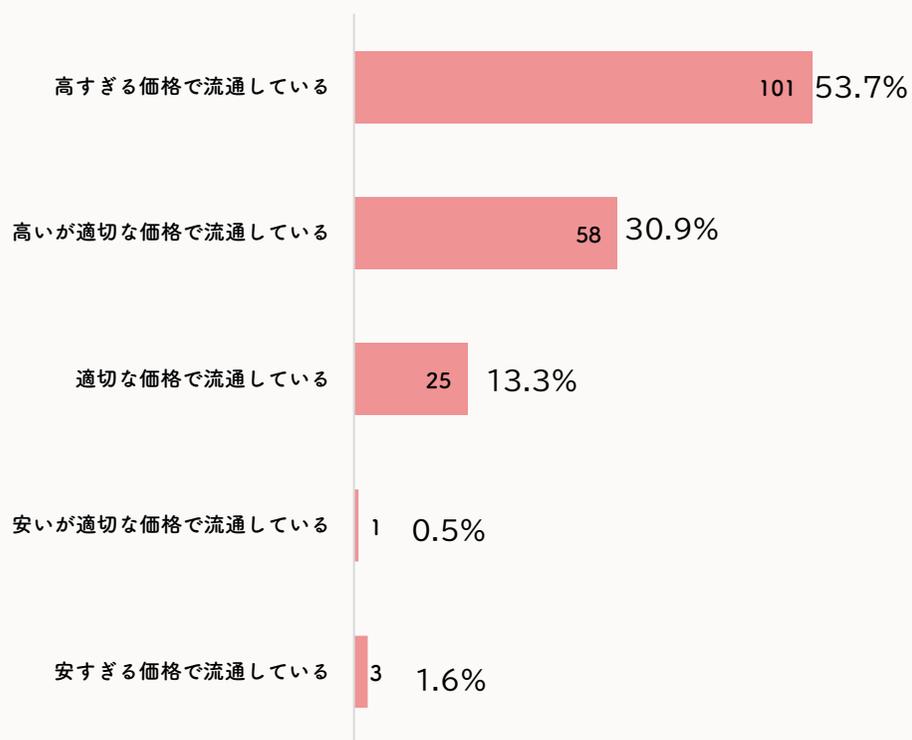
令和5年度と比べた収支実績 (N=188)



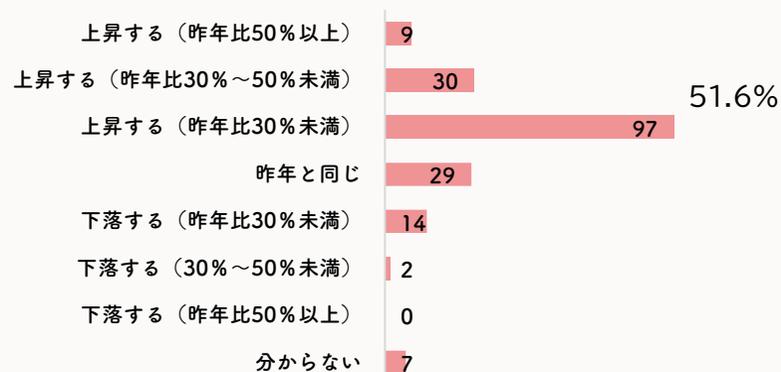
# 3. コメの消費者価格について

- 消費者が購入している令和6年産米の価格について、生産者としての受止めについては、最多が「高すぎる価格で流通している」で53.7%、次いで「高いが適切な価格で流通している」で30.9%の順。
- 令和7年産主食用玄米の販売単価は、令和6年産米の販売単価に比べて、最多が「30%未満上昇する」、令和8年産主食用玄米の販売単価は、令和6年産米の販売単価に比べて、最多が「30%未満下落する」。

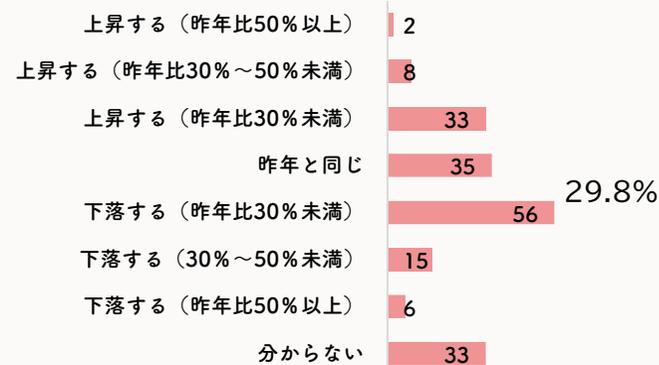
## 令和6年産米の消費者価格 (N=188)



## 令和7年産米の販売単価 (N=188)



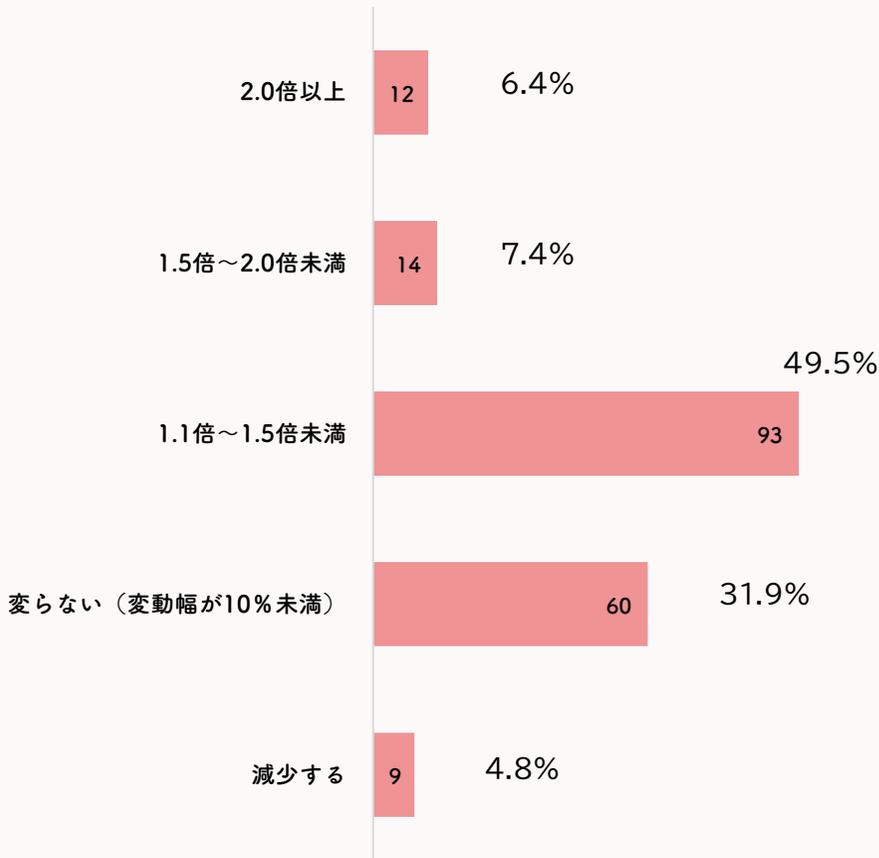
## 令和8年産米の販売単価 (N=188)



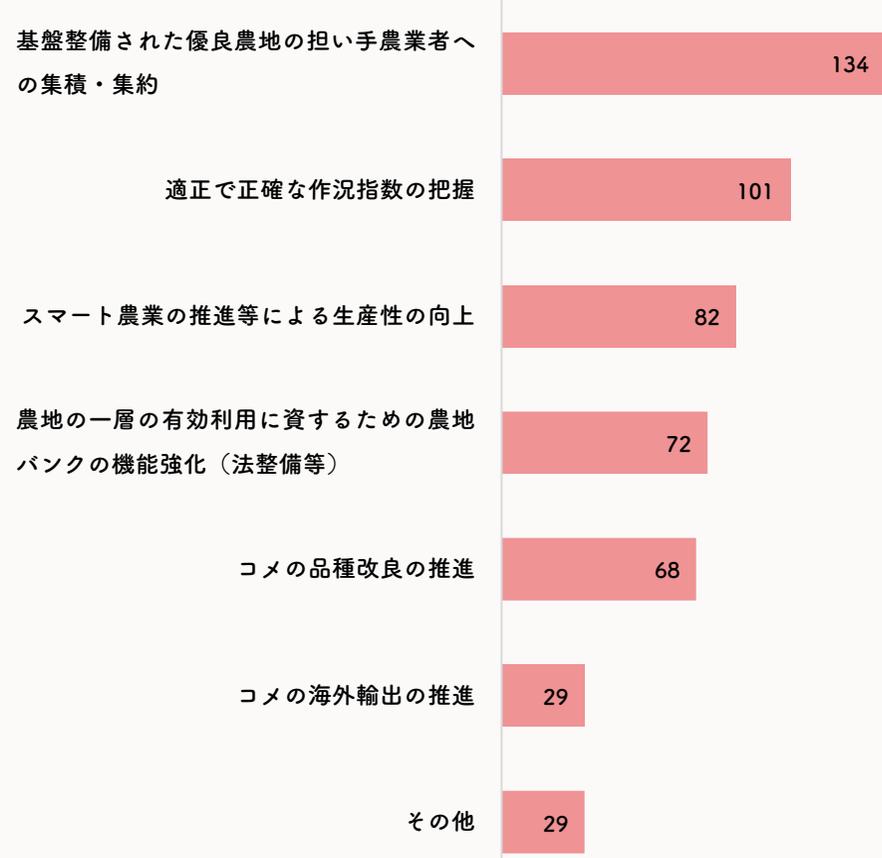
# 4. コメの作付面積の変化と取組みや対策

- 今後5年間で、コメ作付面積を現在よりもどの程度増加させるかとの問いには、最多が「1.1倍～1.5倍未満」、次いで「変わらない～1.1倍未満」、「1.5倍～2.0倍未満」の順。
- コメの生産の安定及び増産に向けてどのような取組や対策が必要か（複数回答）との問いには、最多が「基盤整備された優良農地の担い手農業者への集約・集積」、次いで「適正で正確な作況指数の把握」、「スマート農業の推進等による生産性の向上」の順。

今後5年間の作付面積 (N=188)



安定及び増産に向けての取組みや対策 複数回答 (N=188)



# 5. コメの生産での今後の不安、障壁と対応について

- 稲作経営での今後の不安（複数回答）は、最多が「農業用施設の建築単価や機械の取得単価が高すぎる」、次いで「生産コストの大幅上昇」、「人手不足」、「生産過剰によるコメ価格の暴落」の回答が拮抗している。
- コメの増産に向けての障壁・対応にはどのようなものがあるか（複数回答）との問いには、最多が「増産に必要な機材、資材、人件費等が高騰していること」、次いで「必要となる労働力が確保できない・不足していること」、「農地の集積・集約化・大区画化が進まないこと」が拮抗している。

## 稲作経営で今後の不安

複数回答 (N=188)



## 障壁と対応について

複数回答 (N=188)

